

\*\*\*\*\*

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.94 です。

\*\*\*\*\*

===== 目次 =====

【会長からのお知らせ】内保連への加盟が承認される

【事務局からのお知らせ】会員動向（2006年5月8日現在数 689名、専門医 505名）

【WHO トピックス】スーダンで悪化する健康 - 命を救うのに資金が必要 -

<Press March 2006 WHO-196>

【M.A.N(Medical Academy News)】

-----

===== JACLaP WIRE =====

【会長からのお知らせ】

内保連(内科系学会社会保険連合)の第99回例会が5月10日、東海大学校友会館で開催され、日本臨床検査専門医会の加盟が承認された。内保連加盟学会数は83となった。平成20年度診療報酬改定にむけ、日本臨床検査医学会と協力して厚生労働省に要望することになる。(会長 森 三樹雄)

【事務局からのお知らせ】

会員動向（2006年5月8日現在数 689名、専門医 505名）

【所属・その他変更】

廣岡良文 先生：旧 愛知医科大学臨床検査医学講座

新 定年退職（愛知医科大学 名誉教授）

吉田 博 先生：旧 東京慈恵会医科大学附属柏病院 内科総合診療部

新 東京慈恵会医科大学附属柏病院 中央検査部 診療部長

上田尚紀 先生：旧 山口県立総合医療センター 臨床検査科

新 医療法人仁保病院

板橋 明 先生：旧 埼玉医科大学臨床検査医学講座

新 第17回国際骨量測定ワークショップ 会長

伊藤 圓 先生：旧 豊田地域医療センター 院長

新 定年退職（豊田地域医療センター 顧問）

丹野正隆 先生：旧 J R 東京総合病院病理検査

新 J R 東京総合病院臨床検査科 部長

小林 功 先生：旧 医療法人宏愛会第一病院  
新 群馬パース大学 学長  
和田久泰 先生：旧 岐阜大学大学院医学研究科病態情報解析医学  
新 医療法人明萌会 高井クリニック 健康増進センター長  
田窪孝行 先生：旧 大阪市立大学大学院医学研究科血液病態診断学  
新 大阪医科大学応用診断・治療学講座臨床検査医学 教授  
畑中一仁 先生：旧 関東労災病院検査科  
新 関東労災病院病理診断科

【施設名変更】

旧 : 日本医科大学附属第二病院  
新 : 日本医科大学武蔵小杉病院(4月より)

【平成18年度第一回総会について】

第16回日本臨床検査専門医会春季大会において平成18年度第一回総会が開催されました。

会場：ホテルメトロポリタン高崎 丹頂の間

時間：12時40分～12時55分

報告事項

1. 第24回日本臨床検査専門医会振興会セミナーは、7月21日(金)「平成18年度診療報酬改定」をテーマに東京ガーデンパレスにて開催されます。
2. 第17回春季大会は6月2日(土)および3日(日)に、旭川グランドホテルを会場として開催されます。多数の会員の参加をお待ちしています。

審議事項

第一号議案：平成17年度決算が承認されました。

決算内容はJACLaP NEWSで配信いたします。

第二号議案：会則の一部を以下のように改訂することが承認されました。

第5章 役員

第21条の3として

「委員の任期は委員長を4年とする。委員は2年で再任することができるが、4年を限度とする。」を追加する。

【教育セミナー報告】

第62回教育セミナー

平成18年3月25日、近畿大学医学部臨床検査医学 古田格教授の担当で、9名が参加して行われた。

第63回教育セミナー

平成18年4月15日、慶應義塾大学医学部臨床検査医学 村田満教授の担当で、22名が参

加して行われた。

第 64 回教育セミナー

平成 17 年 5 月 14 日、昭和大学で開催される予定。参加予定 27 名。

第 65 回教育セミナー

平成 17 年 5 月 28 日、防衛医科大学で開催される予定。参加予定 31 名。

【第 3 回 GLM 教育セミナー報告】

平成 18 年 5 月 13 日、都市センターホテルで開催される予定。参加予定 27 名。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

最近、住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLaP WIRE など電子メールの連絡が着かなくなる会員が多くなっています。

勤務先（所属）、住所、名称の変更時および E-mail address の変更がありましたら、必ず事務局までお知らせください。

勤務先（所属）、住所、名称の変更は、本年度会費の振り込み用紙に記載するか、当会ホームページから会員登録票をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送り下さい。

【今年度会費振り込みのお願い】

今年度会費の振り込みをお願いいたします。

振り込み状況の確認は、事務局まで FAX、あるいは E-mail でおたずね下さい。

-----

===== JACLaP WIRE =====

【WHO トピックス】スーダンで悪化する健康 - 命を救うのに資金が必要 -

<Press March 2006 WHO-196>

スーダンで何百万もの人に健康被害がみられる。人道的介入資金が供与されない限り、ダルフル地区では、安全な水の確保ができず、医療サービスの欠如とあいまって、マラリア、髄膜炎、下痢性疾患、急性呼吸器感染症、麻疹の流行が予測されている。スーダンに対して、WHO はスーダン人の健康強化のために 20 の健康プロジェクトを実施している。これらは、情報・管理の改善、病院でのケア、病院紹介システム、戦略的健康管理、伝染病の監視・流行への迅速対応・伝染病撲滅、環境衛生などである。WHO は、スーダンで救援活動を続けるために、伝染病の流行防止と死亡者減少のために健康資金として、2400 万米ドルが必要としている。

スーダンでは、伝染病が主要な死因であり、過去 6 か月間に、急性水様性下痢症、コレラ、 Dengue 熱、黄熱病、サル天然痘、髄膜炎が勃発した。雨期(6 月と 7 月)に入り病気が流行する前に、健康維持、衛生状態の改善、医療サービスへのアクセスの改善、薬剤と安全

な水の確保などのために、緊急に資金が必要とされる。

(十文字学園女子大学教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

MAN 4 月 1 日号

会長推薦で副会長に才藤氏（東京歯科大千葉病院）  
今年度内に認定一般検査技師の本試験実施も  
日臨技が定期総会開く

日本臨床衛生検査技師会（会長小崎繁昭氏）の平成 17 年度第 2 回定期総会が 3 月 25 日に都内で開かれた。役員改選では、会長推薦による副会長に才藤純一氏（東京歯科大学千葉病院）が選出された。専務理事には高田鉄也氏、金子健史氏（横須賀市民病院）が選出され、当面は、事務部長の退職に伴い、専務理事 1 名が事務局長を兼務することになる。また、日臨技が進めている一般検査の認定制度「認定一般検査技師制度」の進捗状況も報告された。今秋をメドに特例試験を行い、一般会員を対象とした本試験を今年度内に実施する方向で準備を進めているという。

都臨技の新会長に岩井氏（社会保険中央総合病院）  
東京都臨床検査技師会が予算総会

東京都臨床検査技師会（会長小沼利光氏）の平成 18 年度予算総会が 3 月 23 日に都内で開かれ、平成 18・19 年度役員選任で新会長に岩井行一氏（社会保険中央総合病院）が選出された。就任あいさつで岩井新会長は、「非常に重みを感じている。8 年間の理事の経験をもとに、都臨技発展のため、新役員ともども全力を尽くしたい」と述べた。

また、都臨技の役目として、[1]職能団体としての組織の強化と拡大、[2]最新の医療技術やシステムを修得するための生涯教育の充実、[3]社団法人としての公益活動を挙げ、会員相互の利益と都臨技の発展に尽力していく考えを示した。

ICU での感染、8 割が肺炎 原因菌の約 4 割が MRSA  
厚生省・院内感染対策中央会議で報告

厚生労働省の「院内感染対策中央会議」が 3 月 20 日に開催され、院内感染サーベイ

ランス事業のうち、[1]集中治療(ICU)、[2]検査、[3]全入院患者、[4]外科手術部位感染(SSI)、[5]新生児集中治療(NICU) の5部門における2004年の結果概要が報告された。ICUでの感染例は8割が肺炎で、その原因菌の4割近くをメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)が占めていた。

サーベイランスは、院内感染に関する情報を提供することにより、医療機関の院内感染対策を支援する目的で実施されている。参加医療機関に対しては自施設と全体のデータを適宜閲覧できるように、情報がフィードバックされる。

報告概要によると、ICU部門は報告施設約20病院、1万633人の患者のうち、入室48時間以降に感染が認められたのは435人。そのうち約80%が肺炎であり、起因菌としてはMRSAが38%で最も多く、次いで緑膿菌の15%となっていた。

検査部門では、報告施設約240病院、12万4221人の患者から、16万3677件の血液(14万6527件)または髄液(1万7150件)が採取され、そのうち2万129人の検体から病原菌が検出された。病原菌の種類は、血液では黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌、大腸菌の順で多く、髄液検体では表皮ブドウ球菌、黄色ブドウ球菌が多かった。

4月11日号

メタボリックシンドロームの概念導入を  
健診・保健指導の在り方検討会が標準的プログラム構築の必要性示す

厚生労働省「標準的な健診・保健指導の在り方に関する検討会」の健診分科会が3月20日に開かれ、事務局から「標準的な健診・保健指導プログラム」の論点整理が提出された。糖尿病など生活習慣病の有病者・予備軍を減少させる観点から、内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)の概念を導入した標準的なプログラムを構築する必要性を指摘。[1]科学的根拠に基づいて健診項目を見直す、[2]生活習慣病の発症・重症化をもたらす危険因子の保有状況に従って、健診対象者を階層化する、[3]適切な保健指導を行うための判定に、標準的な基準を導入する ことが必要との考えを打ち出した。

厚労省は、メタボリックシンドロームなどの生活習慣病を主なターゲットとした健診、保健指導のあり方を議論し、健診と保健指導に関する標準的プログラムの作成等に取り組むため、2月に健康局長が主宰する検討会に下部組織として健診分科会と保健指導分科会を設置。それぞれ標準的な実施プログラム等の検討を進めることにしている。保健指導分科会が3月15日に初会合を開いたのに続き、今回は健診分科会の初会合がもたれた。

健診項目に関しては、生活習慣病、メタボリックシンドロームの予防に向けて、保健指導が必要な人を抽出する観点から、メタボリックシンドロームの判断基準に準

じた身体計測（腹囲、身長、体重）血液検査（血糖、コレステロール、中性脂肪）  
血圧等のほかに、どのような検査項目が必要になるかを論点として挙げた。

人間ドック認定施設を新たに7施設追加  
日本病院会、日本人間ドック学会

日本病院会と日本人間ドック学会はこのほど、「人間ドック・健診施設機能評価」  
認定施設を新たに7施設認定した。

認定期間は、3月25日から2011年3月31日まで。これにより、認定施設数は計105施  
設となった。今回認定証が発行された施設は以下の通り。

江戸川病院総合健診センター（東京都・江戸川区） 神奈川県厚生農業協同組合連  
合会健康管理センター（神奈川県・厚木市） 宮城社会保険病院（宮城県・仙台市）  
千葉社会保険病院健康管理センター（千葉県・千葉市） 市立長浜病院健診センター  
（滋賀県・長浜市） 平塚胃腸病院池袋藤久ビルクリニック（東京都・豊島区） 人間  
ドックセンターウェルネス天神（福岡県・福岡市）

禁煙車でも受動喫煙、新幹線車両での実態調査で判明  
第70回日本循環器学会

新幹線では、禁煙車内にもかかわらずタバコ煙に汚染されている実態が、第70回日  
本循環器学会で、飯田真美氏（岐阜女子大学家政学部）から報告された。特に喫煙車  
に隣接する禁煙車内は、乗客の移動やエアコン吹出口の影響を受け、喫煙車内の粉じ  
ん濃度基準を超えるタバコ煙が流入していることが分かった。飯田氏は、「喫煙車が  
存在する限り受動喫煙はなくなる」と指摘し、新幹線の全面禁煙化を強く求めた。

飯田氏らは、新幹線の禁煙車で受動喫煙があるかどうか、粉じん濃度を用いて検討  
を行った。名古屋から東京へ向かう新幹線車内の予備調査では、喫煙車内の粉じん濃  
度は、名古屋の乗車直後と新横浜停車時に大きく上昇した。それに伴い、禁煙車内の  
粉じん濃度も同じパターンを辿り、厚生労働省の汚染基準値0.15mg/m<sup>3</sup>を超えている  
ことが分かった。停車時にドアが開いた時、禁煙車内に粉じんが流れ込んだものと見  
られるが、飯田氏らの観察ではデッキでの喫煙が大きな原因と考えられた。

シスメックスが健康管理支援ビジネスに参入

シスメックスは、検査技術を活用したセルフメディケーション支援システム「タッ

チで続ける健康日誌」を開発、イオンのジャスコ店舗のドラッグストア売り場を対象とした、健康管理を支援する新たなビジネスに参入した。

3月28日開店のジャスコナゴヤドーム前店でテスト運用を始めており、今後はテスト運用の結果をふまえ、さらなる改良を加えるとともに、早期の本格導入を目指す考えだ。

セルフメディケーション支援システムは、ヘモグロビン濃度や血圧・血流・体脂肪の測定結果と、設問への顧客の回答内容により、専門医監修の生活習慣や不足栄養成分に関するアドバイスを個々の顧客に提供するもの。

4月21日号

臨床検査技師国試「合格者は2968人」、合格率は2.3ポイント減の72.9%

厚生労働省は7日、3月3日に実施した第52回臨床検査技師国家試験の合格者を発表した。受験者数は4071人で合格者は2968人、合格率は72.9%だった。前回の合格率は75.2%であり、合格率は2.3ポイント低下した。合格基準は配点1問1点の合計200点満点のうち、120点以上を満たした者。

また、試験問題の中で、午前の第71問「必須微量元素はどれか」、午後の第28問「ヘマトキシリンで正しいのはどれか」、午後の第31問「心筋細胞内の顆粒が陽性を示す染色法はどれか」、午後の第72問「糸状菌はどれか」の計4問について、複数の正解があるため、複数肢を正解とする措置がとられた。

H5N1を指定感染症に - 新型インフルエンザへ対応  
厚生科学審議会感染症分科会

厚生科学審議会感染症分科会が14日に省内で開催され、インフルエンザH5N1（高病原性鳥インフルエンザA）を、感染症法による「指定感染症」に指定することを議論。現在までの発生状況等を踏まえ、指定感染症とする基本方針を了承した。今後は政令改正に向けて、パブリックコメントの手続きに入る予定だ。

現在わが国は、昨年WHOが事前対策計画の中で定めたフェーズ1～6の分類のうち、フェーズ3「新しいヒト感染が見られるが、人-人感染による拡大は見られない、あるいは非常に稀に感染が見られる（家族内など密接な接触者）」という段階にある。

また、厚労省が昨年11月に策定した「新型インフルエンザ対策行動計画」の中では、WHOのフェーズ4「限定された人-人感染の小さな集団発生（クラスター）」が見られるが、人-人感染は依然として限定的」宣言に基づき、ウイルスが確定次第、速やかに

感染症法に基づく指定感染症への指定を行うとともに、検疫法の適用を行うとの方針が示されている。

さらに厚労省は、WHOによると2003年12月から現在までに、世界で193人の発症（うち109人死亡）事例が報告されており、今年1月以降だけでも新たに4カ国（アゼルバイジャン、エジプト、イラク、トルコ）で26人の発症（死亡10人）が報告されている、WHOの医療施設向け感染対策指針では、鳥-人感染の段階から入院等の措置が推奨されていることなどを挙げ、「状況が変化している」との認識を持っている。

こうした状況変化を踏まえ、厚労省は感染症法の政令を改正し、インフルエンザH5N1を指定感染症に指定する方針を打ち出した。指定感染症は、既知感染症の中で1~3類には分類されないが、1~3類に準じた対応をとる必要性が生じたもの。政令で、1年以内に期間を限定（必要があれば、さらに1年延長できる）して指定される。

健全な再生医療の発展を視野に、ヒト幹細胞の指針で一部改訂を要望  
日本再生医療学会

日本再生医療学会は8日、都内で会見し、「ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針」に対する見解を表明した。同学会は、わが国で科学性・倫理性のもとに再生医療が進められるとして指針を評価。その上で、健全な再生医療を進展させていくため、予防的見地と形態による障害を対象疾患に含める、手術等で摘出されたヒト幹細胞を利用する場合、自家移植は例外とする、次回見直しでは胎児からの幹細胞の利用を検討するなど、指針の一部改訂を要望した。

今回の指針では、ヒト幹細胞の定義として、ヒトから採取された幹細胞、またはその幹細胞に由来すると考えられる幹細胞を含んでいる。ただ、胎児から採取した幹細胞を用いる臨床研究は含まれていない。胎児幹細胞を医療に応用することの是非をめぐっては、中絶胎児を生ゴミとして廃棄した事件が発覚、社会問題化したことが背景にあることから、今回の指針では胎児幹細胞の利用は見送られることになった。ただ、指針がないまま胎児由来幹細胞を使った臨床研究が進められてしまうとの危機感もあることから、胎児幹細胞の利用に関しては継続審議となっている。

-----  
=====

JACLaP WIRE, No.94 (2006年5月22日発行)

発行：日本臨床検査専門医会 [ 情報・出版委員会 ]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

TEL:045-787-2721・FAX:045-786-0392

本WIREの記事購読(配信・停止)・広告等に関するお問い合わせ先



uys-com@umin.ac.jp

日本臨床検査専門医会事務局(入会・退会)に関するお問い合わせ先

senmon-i@jaclp.org

日本臨床検査専門医会ホームページ

<http://www.jaclap.org/>

JACLaP WIRE バックナンバー

<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

-----

\*\*\*\*\*

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

\*\*\*\*\*

メーリングリスト配信先の変更には 1.氏名, 2.現行登録アドレスと 3.変更希望メールアドレスを添えて uys-com@umin.ac.jp まで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。

\*\*\*\*\*